



a chair on the vertical axis

清水寺の檜舞台は、日本古来の伝統工法「懸造り (かけづくり) 」と言う垂直と水平の格子状に組まれた木材で支えられています。この工法によって、崖のように建築が困難な場所でも耐震性を保つことが出来ます。1500 年以上前から日本の寺院を支え続ける伝統工法の考え方を、椅子の構造と意匠として抽象化し、繊細な日本の木造建築のような佇まいを表現しました。



接合部分は人間の身体のように滑らかに繋がりが、無垢材を楕円形状に削り出した背板は体を優しく受け止めます。素朴で清楚な姿をした完成度の高い椅子になりました。

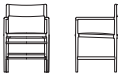
a chair on the vertical axis

TIME & STYLE



I-711 サイドチェア
W470×D515×H780×SH450

	ブナ
F1	135,300 (123,000)
F2	140,800 (128,000)
L1	151,800 (138,000)
L2	157,300 (143,000)



I-712 アームチェア
W520×D515×H780×SH450×AH630

	ブナ
F1	160,600 (146,000)
F2	166,100 (151,000)
L1	177,100 (161,000)
L2	182,600 (166,000)

W (幅)
D (奥行)
H (高さ)
SH (シート高)
AH (アーム高)

寸法単位：mm

価格は日本円
() は税抜き価格

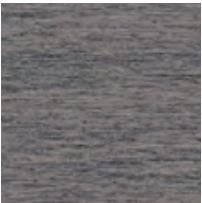
F1 (生地 ランク 1)
F2 (生地 ランク 2)
L1 (革 ランク 1)
L2 (革 ランク 2)



ブナ
ナチュラルホワイト



ブナ
スノーホワイト



ブナ
ミディアムグレー



ブナ
チャコールグレー



ブナ
ソープ